

(別添1)

## 高性能林業機械の保有概要

林野庁では、林業機械の普及に資するため、毎年度、民有林の林業機械の保有台数について調査している。平成14年度(平成15年3月末現在)の高性能林業機械の保有状況(速報値)は以下のとおりである。

1. 平成14年度の保有台数は、前年度の2,402台から97台増加して、2,499台(対前年度比104%)となった。平成10年度まで6年連続で200台以上の大きな伸びを示していたが、ここ数年増加台数の伸びは徐々に鈍化している。
2. 高性能林業機械の機能別の保有台数の割合では、造材機能を持つ機械(プロセッサ、ハーベスタ)が全台数の53%、集材機能を持つ機械(スキッド、フォワーダ、タワーヤーダ、スイングヤーダ)が46%、伐倒機能を持つ機械(フェラーバンチャ、ハーベスタ)が17%を占めている。伐倒機能を持つ機械の割合が低い、これは急傾斜地等における高性能林業機械化の遅れ等のためであると考えられる。
3. 11年度調査から、タワーヤーダとスイングヤーダを区分して調査を行っているが、タワーヤーダの保有台数は180台で、前年度に比べ5台減少しているのに対し、スイングヤーダの保有台数は191台で、前年度に比べ31台増加し、はじめてタワーヤーダの保有台数を上回った。また、全機種の中でもスイングヤーダが前年比増加台数のトップとなった。同じ架線系集材機でも、スイングヤーダはパワーショベルに林業用集材ウインチを搭載したものであり、タワーヤーダに比べて汎用性、簡便性が高いため、前年度に引き続き導入が進んだものと考えられる。
4. 12年度調査から、その他の高性能林業機械\*の調査を行っており、14年度保有台数はハイブリッド機械24台となっている。

(\*参考) その他の高性能林業機械とはプロセッサ、フォワーダ、ハーベスタ、タワーヤーダ、スイングヤーダ、スキッド、フェラーバンチャ以外で「高性能林業機械化促進基本方針」に基づく高性能林業機械である。具体的にはハイブリッド機械、フェラースキッド、リモコン式刈払機、乗用型刈払機等がある。

ハイブリッド機械とは建設用ベースマシン(パワーショベル)に複数の高性能林業機械等作業機(例.スイングヤーダウインチ+プロセッサヘッド)を装備した2つ以上の機能を持つ高性能林業機械である。

## 参考 高性能林業機械の機種説明